

2.7 送電線の等価回路

送電線のインピーダンス定数*

抵抗: 銅線やアルミ線を撚り合わせて使用

架空送電線: 0.01~0.05 Ω/km

地中ケーブル: 0.01~0.03 Ω/km

漏れコンダクタンス: 無視できる

(* 電力システム工学, オーム社参照)

インダクタンス

架空送電線: 0.8~1.35 mH/km

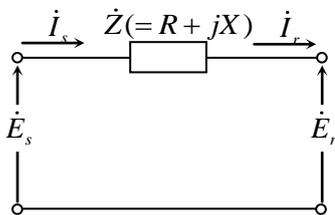
地中ケーブル: 0.1~0.4 mH/km

静電容量

架空送電線: 0.008~0.015 μF/km

地中ケーブル: 0.3~0.6 μF/km

短距離送電線 (30 km 程度まで) 集中定数表示



$$\begin{bmatrix} \dot{E}_s \\ \dot{I}_s \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \dot{A} & \dot{B} \\ \dot{C} & \dot{D} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \dot{E}_r \\ \dot{I}_r \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & \dot{Z} \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \dot{E}_r \\ \dot{I}_r \end{bmatrix}$$

$\dot{A} = (\dot{E}_s / \dot{E}_r)_{\dot{I}_r=0}$ 開放送受電端電圧比

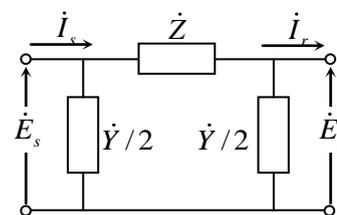
$\dot{B} = (\dot{E}_s / \dot{I}_r)_{\dot{E}_r=0}$ 短絡伝達インピーダンス

$\dot{C} = (\dot{I}_s / \dot{E}_r)_{\dot{I}_r=0}$ 開放伝達アドミタンス

$\dot{D} = (\dot{I}_s / \dot{I}_r)_{\dot{E}_r=0}$ 短絡電流比

$\dot{Z} = R + jX$, $R = r\ell$, $X = x\ell$, (r [Ω/km], $x = \omega L = 2\pi fL$ [Ω/km], ℓ [km])

中距離送電線 (100 km 程度まで)



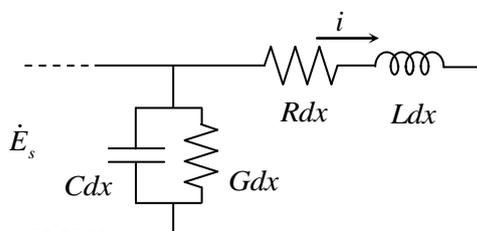
$$\begin{bmatrix} \dot{E}_s \\ \dot{I}_s \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{\dot{Z}\dot{Y}}{2} + 1 & \dot{Z} \\ \dot{Y} \left(1 + \frac{\dot{Z}\dot{Y}}{4} \right) & \frac{\dot{Z}\dot{Y}}{2} + 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \dot{E}_r \\ \dot{I}_r \end{bmatrix}$$

可逆回路では $\dot{A}\dot{D} - \dot{B}\dot{C} = 1$ の関係がある。

(F パラメータ参照のこと)

長距離送電線路の等価回路 (100 km 以上)

分布定数回路で表す



$\dot{z} = R + j\omega L$, $\dot{y} = G + j\omega C$

$$\begin{bmatrix} \dot{E}_s \\ \dot{I}_s \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \dot{A} & \dot{B} \\ \dot{C} & \dot{D} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \dot{E}_r \\ \dot{I}_r \end{bmatrix}, \quad \dot{A}, \dot{B}, \dot{C}, \dot{D} \text{ 四端子定数}$$

$\dot{A} = \dot{D} = \cosh \dot{\gamma} \ell$

$\dot{B} = \dot{Z}_w \sinh \dot{\gamma} \ell$, $\dot{C} = (\sinh \dot{\gamma} \ell) / \dot{Z}_w$

$\dot{A}\dot{D} - \dot{B}\dot{C} = \cosh^2 \dot{\gamma} \ell - \sinh^2 \dot{\gamma} \ell = 1$

$\dot{Z}_w = \sqrt{\dot{z} / \dot{y}}$: 送電線の波動インピーダンス

$\dot{\gamma} = \sqrt{\dot{y}\dot{z}}$: 送電線の伝搬定数

2.8 単位法 (PU 法 : per-unit method)

- ・定格の異なる機器の、電圧・電流・電力・インピーダンスなどを、系統に適した基準値 (E_B : ベースの添え字をつける) に対する比として無次元化
- ・複雑な電力回路の解析に便利
- ・系統電圧が 500 kV のとき、基準電圧 V_B を 500 kV とすると系統電圧は 1.0 pu。電圧 600 kV は $600/500=1.2$ pu

pu 電圧の表し方

電力系統の定格電圧 V_B , E_B を基準値とするとある線間電圧 V と、相電圧 E の pu 値は

$$E_{pu} = \frac{E}{E_B} = \frac{\sqrt{3}V}{\sqrt{3}V_B} = \frac{V}{V_B} = V_{pu}, \text{ となり}$$

単位法では線間電圧と相電圧は等しい

3相回路での基準値

通常3相分容量と線間電圧を基準値にする

- ① 基準電圧: 線間電圧 V_B [V]
- ② 基準容量: 3相分容量 $S_{3B} = 3S_B$ [VA]

$$V_B = \sqrt{3}E_B \text{ より,}$$

- ③ 基準電流: $I_B = \frac{S_B}{E_B} = \frac{S_{3B}/3}{V_B/\sqrt{3}} = \frac{S_{3B}}{\sqrt{3}V_B}$ [A]
- ④ 基準インピーダンス: $Z_B = \frac{E_B}{I_B} = \frac{E_B^2}{S_B} = \frac{V_B^2}{S_{3B}}$ [Ω]

パーセント法

pu 値を 100 倍した値で、単位法と同様 [VA][V] の単位無しに計算できる。発電機や変圧器などの電力機器 (銘板に) は、定格容量、定格電圧を基準としたパーセント法で値を表示。

インピーダンス Z [Ω] の % インピーダンスは

$$\dot{Z}_{\%} = \dot{Z}_{pu} \times 100 = \frac{\dot{Z}I_B}{E_B} \times 100 = \dot{Z} \frac{S_{3B}}{V_B^2} \times 100 [\%]$$

$$\text{逆に \% インピーダンスから実値は } \dot{Z} = \frac{\dot{Z}_{\%}}{100} \times \frac{V_B^2}{S_{3B}}$$

・pu 値は基準値を用いた pu 表示のことで、任意の容量 S [VA], 電圧 E [V], 電流 i [A] などは

$$S_{pu} = \frac{S}{S_B}, E_{pu} = \frac{E}{E_B}, I_{pu} = \frac{i}{I_B} \text{ pu}$$

インピーダンスは

$$Z_{pu} = \frac{\dot{Z}}{Z_B} = \frac{I_B}{E_B} \dot{Z} = \frac{S_B}{E_B^2} \dot{Z}, Y_{pu} = \frac{1}{Z_{pu}} = \frac{E_B^2}{S_B} \dot{Y}$$

pu 値は基準値をかけて元の単位に戻す

基準値は、「容量」, 「電圧」, 「電流」, 「インピーダンス」の 4 つより 2 つを選択する。例えば基準値を、1相分容量 S_B [VA] と相電圧 E_B [V] とすると、他の量は

$$\text{基準電流: } I_B = \frac{S_B}{E_B} \text{ [A]}$$

$$\text{基準インピーダンス: } Z_B = \frac{E_B}{I_B} = \frac{E_B^2}{S_B} \text{ [Ω]}$$

インピーダンス Z の pu 値は

$$\dot{Z}_{pu} = \frac{\dot{Z}}{Z_B} = \frac{S_B}{E_B^2} \dot{Z} = \frac{3S_B}{(\sqrt{3}E_B)^2} \dot{Z} = \frac{S_{3B}}{V_B^2} \dot{Z}$$

3相回路で V_B と S_{3B} を基準値にすると単相分と同じかたち。

3相の有効電力 P [W], 無効電力 Q [var], 皮相電力 S [VA] は:

$$P_{pu} = \frac{P}{S_{3B}}, Q_{pu} = \frac{Q}{S_{3B}}, S_{pu} = \frac{S}{S_{3B}}$$

ただし電圧 \times 電流は、 10^2 の係数がかかり煩雑

$$\text{単位法: } E_{pu} I_{pu} = \frac{E}{E_B} \frac{I}{I_B} = \frac{S}{S_B} = S_{pu}$$

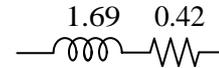
$$E_{\%} \cdot I_{\%} = E_{pu} \times 100 \cdot I_{pu} \times 100$$

$$= \left(\frac{E}{E_B} \times 100 \right) \left(\frac{I}{I_B} \times 100 \right)$$

$$= \frac{S}{S_B} \times 10^4 = S_{pu} \times 100 \times 10^2 = S_{\%} \times 10^2$$

例題： 抵抗 10Ω ，リアクタンス 40Ω ，線間電圧 154 kV の送電線がある，いま，基準容量 10 MVA ，基準電圧 154 kV として，送電線の%インピーダンスを求め，%インピーダンス図を描け。

$$Z_{\text{pu}} = \frac{S_B}{V_B^2} \dot{Z} \text{ より } 10 \frac{10\text{M}}{(154\text{k})^2} \times 100 = 0.42 \%, \quad 40 \frac{10\text{M}}{(154\text{k})^2} \times 100 = 1.69 \%, \text{ よって, } Z_{\%} = 0.42 + j1.69$$



%インピーダンスの基準値の変換

電力系統は，定格の異なった機器が接続されるので，単位法で表すために基準値を変換する。容量，電圧，電流の定格値が， S_R ， E_R ， I_R の機器のインピーダンス値のパーセント表示は

$$\dot{Z}_{R\%} = \dot{Z}_{\text{pu}} \times 100 = \frac{\dot{Z} I_R}{E_R} \times 100 = \dot{Z} \frac{S_R}{E_R^2} \times 100 [\%]$$

これを基準値が容量 S_B [MVA]，電圧 E_B [kV] の系統で使用した場合の%インピーダンスは

$$Z_{B\%} = \dot{Z} \frac{S_B}{E_B^2} \times 100 \text{ だから, } Z_{R\%} \text{ とは,}$$

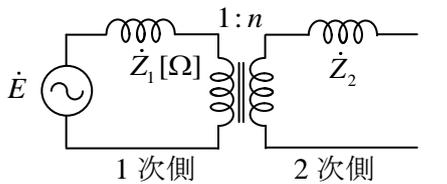
$$Z_{B\%} = Z_{R\%} \frac{S_B}{S_R} \left(\frac{E_R}{E_B} \right)^2$$

$$\text{pu 表示でも同様に } Z_{B\text{pu}} = Z_{R\text{pu}} \frac{S_B}{S_R} \left(\frac{E_R}{E_B} \right)^2$$

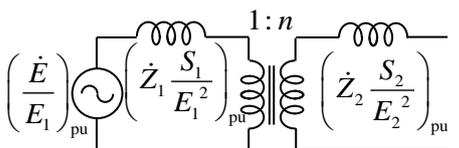
定格電圧を同じ ($E_R = E_B$) にすれば，電圧換算

不要で $Z_{B\text{pu}} = Z_{R\text{pu}} \frac{S_B}{S_R}$ となり，容量倍で良い。

変圧器を含む回路での基準値の選び方

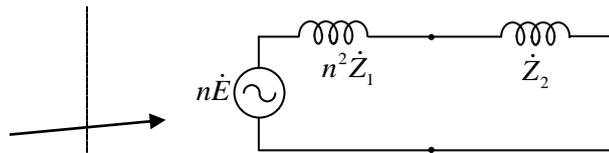


(a) 巻数比 n の変圧器

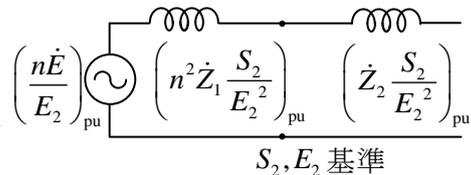


E_1, S_1 基準 E_2, S_2 基準

(b) pu インピーダンス図



(c) 図(a)を2次側に換算した図



(d) 図(c)の pu インピーダンス図

$E_2 = nE_1, S_1 = S_2$ とおけば，(b)と(d)は等しい。

つまり1次2次毎に pu インピーダンス図求め，その後直接接続すればよい。

例：1次系統が 500 kV ，2次系統が 275 kV の系統が 300 MVA ， $500/275 \text{ kV}$ の変圧器で接続されているとき，pu インピーダンス図は，1次側を 300 MVA ， 500 kV ，2次側を 300 MVA ， 275 kV として pu インピーダンスを求めて，接続すると全体の pu インピーダンス図になる。